

News Release

2014年12月17日

報道資料

～株式会社ジェイ・エム・エスに“医療用レーザー血流計”を出荷～ パイオニア 医療機器の出荷を開始、医療・健康機器関連事業を本格化

パイオニア株式会社は、医療機器の製造・販売会社である株式会社ジェイ・エム・エス(本社:広島市中区、代表取締役社長:奥窪 宏章、以下「JMS」)向けに、世界最小・最軽量*の“医療用レーザー血流計”の出荷を12月より開始しました。

当社は、主力のカーエレクトロニクス事業に加え、光学系の技術を応用した「小型血流計」の開発を行うなど、医療・健康機器関連事業にも参入しています。このたび JMS 社へ出荷を開始した“医療用レーザー血流計”は、昨年3月に開発を受託(2013年3月21日発表)したもので、当社が2008年に開発した「非侵襲小型血流センサー素子」を光学部に応用しています。患者様の手・足などの体表にセンサー部分を接触させることで血流量を測定できるほか、センサー部分にクリップを取り付け、測定部位を挟み込むことで、手指、足指または耳たぶなど突起した部位での測定も容易に行えます。小型・軽量なので手軽に持ち運べるほか、バッテリー駆動で無線機能(Bluetooth®)を搭載しているため、医療現場における機器レイアウトの自由度が高まります。

今後当社は、長年培ってきた技術を活かした医療・健康関連機器を開発・拡充し、医療・健康機器関連事業を拡大していきます。

※ 2014年12月17日時点、パイオニア調べ。

【血流量計測について】

体温、脈拍、血圧、呼吸などのバイタルサインは、生命維持の状態を示す重要な情報です。医療の現場では、患者様の体調や病状の変化を把握するため、各種モニター機器を使ったバイタルサインの測定が、日常的に行われています。バイタルサインと同様に、微小循環(細動脈、毛細血管、細静脈)の血流量は、血液が体の末梢まで滞りなく流れているかを示す重要な生体情報であるという認識が広まっており、検査などにおける指標のひとつとしての応用が期待されています。

レーザー血流計は、皮膚表面から皮下組織に向けてレーザー光を照射し、生体を傷つけることなく微小循環の血流量を測定する装置です。測定した血流量は、患者様の血流障害の特定やその程度の評価を支援するために使用されます。

【JMS 社の概要】

社名	株式会社ジェイ・エム・エス
設立	1965年6月12日
資本金	74億1,101万円
代表者	代表取締役社長 奥窪 宏章
本社所在地	広島市中区加古町12番17号
事業内容	医療機器、医薬品の製造・販売及び輸出並びに輸入